

別紙

公開概要書

受付日	令和6年10月30日	回答日	令和6年11月19日	担当課	健康増進課
意見等の内容	<p>手術室で電気メスや超音波凝固切開装置等を使用すると「サージカルスモーク」と呼ばれる煙が発生し、健康障害を引き起こす可能性があることが指摘されてきた。</p> <p>サージカルスモークに含まれる微粒子に手術スタッフが曝露すると、呼吸器疾患を発病する危険性があり、また、ウイルスや細菌に感染した患者さんの手術では、感染する危険性もある。</p> <p>サージカルスモークには、発癌性・変異原性のある有毒ガスが約40種類ほど含まれており、慢性的に曝露することによって、癌をはじめとする様々な健康障害が引き起こされる危険性があるため、労働安全衛生管理上の観点からサージカルスモーク対策を行う必要がある。</p> <p>アメリカ合衆国ではAORN（周術期看護師協会）と州議会議員が協力してサージカルスモーク対策の法制化の運動を進めており、18州の州法に「サージカルスモークが発生するすべての手術で排煙システムを用いなくてはならない」ということが定められている。</p> <p>日本では、望まない受動喫煙をなくすために「健康増進法の一部を改正する法律」が発出され、病院や学校の敷地内、オフィスや飲食店などの屋内も禁煙になったが、日本の手術室に勤務するスタッフは、たばこの煙と同じくらい有害なサージカルスモークを毎日吸いながら手術をしており、多くの医療機関では対策がまったく行われないまま放置もしくは見逃され、不合理かつ理不尽であると言わざるを得ない。</p> <p>未来の益田市の医療を支える医療従事者の健康と安全を守るために、益田市において、ぜひ、日本で初めてとなるサージカルスモーク対策の条例の整備に取り組んでいただきたい。</p>				
回答の内容	<p>サージカルスモーク対策については、日本においても複数の学会により提言や指針が示されているにもかかわらず、全国的には対策がとられていない現状があることを知ることが出来ました。</p> <p>そしてこのことは、医療従事者の方々の健康と安全を守るため、大変重要なことであり、広く医学会全体、県や国での取り組みが必要な問題であると感じました。</p> <p>市といたしましては、まずは、市内の手術室のある益田赤十字病院、益田医師会病院にサージカルスモーク対策について状況確認を行い、各病院に環境整備についてのご意見がありましたことをお伝えしたいと思います。</p> <p>このことにつきましては、まだまだ調査不足の状況でございますので、現時点では益田市において条例を整備することはできませんが、引き続き、国や県、全国的な状況等を確認、情報収集しながら、医療に従事する方々の健康と安全を守るために必要な環境が整えられるよう市の役割を検討してまいりたいと思います。</p>				